

イーバリュー株式会社 御中

---

# エシカルメディア編集会議

2021.11.17

アウトプット研修 / 山下さん

朝礼 / 長谷川さん

👉 ロープレ・教育 / 佐藤さん

👉 人材ポートフォリオ / 渡山さん

👉 社員インタビュー（渡山さん） / 小西さん

# これまでの実績



現在、エシカルメディアには  
32記事が掲載中！



会社の資産

最初にお伝えした通り、

# 継続した記事のアップ

が重要です。

通常業務をおこなう中で、ライティングしていくのは大変だと思います。  
ただ、「継続は力なり」とも言うように、継続していくとその分、  
発信情報が増えていく（＝会社の資産が増えていく）ことになります。

これまでを伴走させていただいた永妻から、  
これからのエシカルメディアの運用に際して、  
ポイントとして欲しいことをまとめてみました。

# エシカルメディア 10のポイント

# 1. エシカルポイントを意識しよう！

エシカルメディアのテーマは

「真っ当さを追求し、発信することで、世の中に新基準を生み出していく」。

そこで意識すべきは、

エシカルポイント＝「“真っ当” かつ “NEW STANDARD” な部分」です。

記事を書く際は、どこがエシカルポイントなのかをよく意識してみましょう。

ex.

- ・イーバリューでしか言えないことはどこか？（他社では言えないことは？）
- ・自分たちの強みってなんだろう？
- ・自分たちならではのエピソードってなんだろう？

※日頃から自分たちを俯瞰して見つめていることが大事。



## 2. 「外部の目」を意識しよう！

自分たちで記事を書いていると、どうしても自分たちの話に終始してしまったり、内輪の話に止まってしまったりします。

エシカルメディアはあくまで“外部に向けた記事”です。

常に外部の目を気にしながら、ライティングやチェックを行いましょう。

ex.

- ・読み手がどう思うか、どう感じるか？（例えば、友人、お客さんの目線で）
- ・記事を読んだ結果、他の企業が活かしてくれるか？
- ・社内用語をそのまま使っていないか？（検索してみる）

## 3. いちばん伝えたいことを定めよう！

ライティングの際に、いろいろと書くことによって、  
「なにを伝えたいのか」がブレるときがあります。

今一度、伝えたいことを整理してみましょう。

時には、いろいろと削ぎ落として考えることも大事。

イメージは、若手芸人の「顔と名前だけでも覚えて帰ってください」。

ex.

- ・この記事（この段落）で、一番伝えたいことはなにか？
- ・端的で言ってみると、なんだろう？（社長が熱かったから入社を決めた、など）

## 4. ときには自分を疑ってみよう。

なぜ、を繰り返すことで本質に近づいていく。

これは取材の鉄則ですが、ライティングをするときにも大切です。

特にチェックをする際には、いかに他人の目になって読むか、

時には自分で書いたものにも疑う、といったことも必要。

いい意味で、疑い深くなっていきましょう。

ex.

- ・ 本当にそうだろうか？と自問自答してみる。
- ・ 時間をあけて確認してみる。(翌日など)
- ・ 場所や環境を変えて確認してみる。



## 5. 修正のときほど、丁寧に。

実は初稿よりも赤字の修正の方が難しかったりするもの。  
一部分を変えると、全体の流れが変わったり、前後の整合性がとれなくなったりすることもあります。  
「ここだけ変えれば大丈夫」と思い込まず、  
他へ影響がないかどうか、広い視野で丁寧に修正しましょう。



## 6. 接続詞を、使いこなそう。

記事をチェックしていると「よく読むと、実は前後がつながっていない」というケースも多々あったかと思います。

読み手が気持ちよく読むためには、記事には“流れ”を意識する必要があります。

接続詞を使うことで、前後のつながりを持たせたり、正しくつながっているかの確認になります。

なんでもかんでも接続詞を使う必要はありませんが、効果的に使っていきましょう。

ex.

- ・ だから、さらに、そして、したがって、その結果、加えて、このように～
- ・ しかし、ただし、でも、とは言え、ところが、にもかかわらず～
- ・ 例えば、一つ目は、一方で～

## 7. チェックは、鳥の目→魚の目→虫の目。

記事をチェックする際は、最初から誤字脱字などを拾うと、  
かなり時間がかかってしまいます。

大きな部分から細かい部分へとチェックしましょう。

- ・ 鳥の目：記事のテーマ・言いたいことが明確か？全体を俯瞰してみましょう。
- ・ 魚の目：構成が問題ないか？流れを確認しましょう。
- ・ 虫の目：各段落で内容が OK か？表現や誤字脱が問題ないか？細かく確認しましょう。

## 8. たまには型を破ってみよう。

取材やライティングに慣れてくると、どうしても型にはまった構成になったり、紋切り型の表現になってしまったりします。

「守破離」という言葉の通り、まずは型を守ることが大事ですが、肝心なのは、そこに安住しないこと。

「本当にこの形でよかったっけ？」「もっと伝わる表現や構成があるのでは？」と考えてみましょう。

また「こんな表現方法もあるんだ」と

日頃からアンテナを張っていろいろなものに触れることも必要です。

## 9. ルールを決めよう。

記事が増えていくと、他の記事と整合性をとる必要もでてきます。  
例えば、「ミズノでの話」だったり、「ひらがな or 漢字」といった  
細かいものまで。

記事が増えれば増えるほど、必要性がでてくるので、  
今後はどこかでルールを決めたり、  
ルールブックとして記載しておくことも大切だと思います。





## 10. 他の業務に活かそう。

エシカルメディアの編集会議で伝えたことは、  
なにも記事を書くときだけのものではありません。  
企画書を作る、動画を作る、お客様へのメール、などなど  
いろいろなことにも通じる考え方だと思います。  
この場で学んだことを、この場限りとするのではなく、  
ぜひいろんな業務で活かしてください。